

予防では学校風土や教員行動の改善、 支援では学びの多様化と適切なマッチングを

公益社団法人子どもの発達科学研究所 所長・主席研究員 和久田 学

2024年3月、文部科学省委託事業「不登校の要因分析に関する調査研究」*1の結果が公表された。不登校児童生徒とその保護者だけでなく、不登校でない児童生徒も対象とした調査の結果から、不登校に関する要因として何が見えてきたのか。不登校の予防や支援にはどのような手立てが有効なのか。調査を担当した公益社団法人子どもの発達科学研究所の和久田学所長に話を聞いた。



わくた・まなぶ 特別支援学校教諭を経て、大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所後期博士課程修了。小児発達学博士。一般社団法人子どもいじめ防止学会理事。著書に、『学校を変える いじめの科学』（日本評論社）など。

人間関係、学習、学校風土、 メンタルヘルスが主要因

「不登校の要因分析に関する調査研究」は、大阪府吹田市、広島県府中市、宮崎県延岡市、山梨県の教育委員会の協力を得て、2022年度に小学3年生から高校1年生（中学3年生を除く）だった児童生徒とその保護者、及び当時担任だった教員等を対象に実施しました。「不登校児童生徒」と「不登校でない児童生徒」との違いを明らかにしてこそ、不登校の関連要因を特定できると考え、すべての児童生徒を対象としました。

また、先行研究に基づき、問題の要因は「背景・環境・きっかけ要因」に整理できることから（図1）、「きっかけ要因」に加えて「背景」と「環境」に関する項目も調査しました。なかなか変えることができない子ども自身の背景（**静的要因**）と、働きかけ次第で変化する環境（**動的要因**）を区別して不登校の関連要因を分析することで、有効な方策を見いだせるのではないかと考えました。

不登校の要因に関する質問への回答を分析したところ、4つの不登校の関連要因が浮かび上がりました（図2）。1つめは学校での**人間関係**です。

いじめ被害だけでなく、仲のよい友人がいない、教員と合わないなどの要因も含まれます。2つめは**学習**に関することです。授業が分からない、宿題ができないといった学業の不振が挙げられます。3つめは**学校風土**です。制服や給食、行事、進級、クラス編成など、学校の枠組みが子どもの実態に合っていないことです。4つめは**メンタルヘルス**です。発達途上にある子どもは、体の不調が気分に影響しやすいものです。

不登校児童生徒・保護者の回答から明らかになった不登校の関連要因と、教員の回答から明らかになった不登校の関連要因には、多少の相違がありました（図3）。「いじめ被害」は、教員の回答では不登校との関連が見られませんでした。不登校児童生徒の回答では関連が見られました。「体調不良の訴え」といった心身の不調や生活リズムの乱れについては、不登校児童生徒・保護者の約7～8割があてはまると回答しましたが、教員は2割以下でした。それらから、いじめ被害やメンタルヘルスの問題は、不登校のリスクを高める

図1 不登校などの問題が起きる要因

背景 静的要因

- 発達障害、感覚過敏
- 身体障害・知的障害
- 精神障害
- 睡眠の問題
- 外国籍
- LGBTQ
- 家庭環境

環境 動的要因

- 学校風土（教員行動）
- 学校のルール、規範
- 学習支援、授業
- 特別支援教育
- メンタルヘルス

きっかけ要因

- いじめ被害
- 対人トラブル（孤立）
- 教員との関係
- 進級・入学等の環境変化
- 学業不振
- 失敗体験
- 家庭トラブル

*公益社団法人子どもの発達科学研究所の提供資料を基に編集部で作成。

*1 調査結果の詳細は、公益社団法人子どもの発達科学研究所のウェブサイトでご覧いただけます。https://kohatsu.org/20240325research-report/

要因と言えますが、教員には見えにくい可能性が示唆されました。

様々な背景を持つ子どもにそれぞれ適切な環境を整える

不登校の関連要因は予測通りであり、文部科学省の「COCOLOプラン」の妥当性を裏づけるものでした。予防で重要なのは、友人関係のトラブルが起きにくい集団づくり、授業改善や学習支援です。既に各学校で実施されていると思いますが、加えて不登校傾向が見られた初期段階での個別支援の充実が一層望まれます。

学校風土の改善では、校則の見直しなどに加えて、教員行動の改善も重要な観点です。一般的に児童生徒の問題行動に教員は叱るという対応を取りがちですが、それで問題行動が収まっても、中長期的に見て望ましい行動に結びつくとは限りません。児童生徒を適切な行動に導く接し方を教員が学ぶことが必要であり、例えば東京都品川区では教員研修の中で学ぶ機会を設けています。

教員が把握することが難しい子どもメンタルヘルスは、ICTを活用して一人ひとりの心身の変化を記録し、問題の予兆の早期発見と支援につなげることが有効だと考えます。

以上のように、不登校の対策には、全児童生徒を対象にした**予防**、不登校傾向の児童生徒の**早期発見・支援**、不登校児童生徒の**個別支援**と、各段階に応じたものがが必要です(図4)。様々な背景(静的要因)を抱えて生きている子どもにそれぞれ適切な環境(動的要因)を整えることが、不登校を防ぐと考えます。アメリカのある自治体は、子どもの問題行動に関する23の危険因子を就学時に確認し、3つ以上あてはまれば問題が起きていなくても支援プログラムを適用して

図2 児童生徒本人の回答による不登校児童生徒と不登校でない児童生徒の違い(抜粋)

	質問項目	不登校でない児童生徒 (%)	不登校児童生徒 (%)	違い(オッズ比*2)
人間関係	いじめ被害	15.0	26.2	2.00
	仲のよい友だちがない	7.4	19.9	3.13
	先生と合わなかった	14.3	35.9	3.35
学習	宿題ができない	24.5	50.0	3.08
学校風土	学校の決まりのこと(制服・給食・行事等)	13.8	38.6	3.94
	入学、進級、転校など	7.0	24.9	4.40
メンタルヘルス	からだの不調	34.0	68.9	4.29
	朝起きられない、夜眠れない	36.4	70.3	4.13

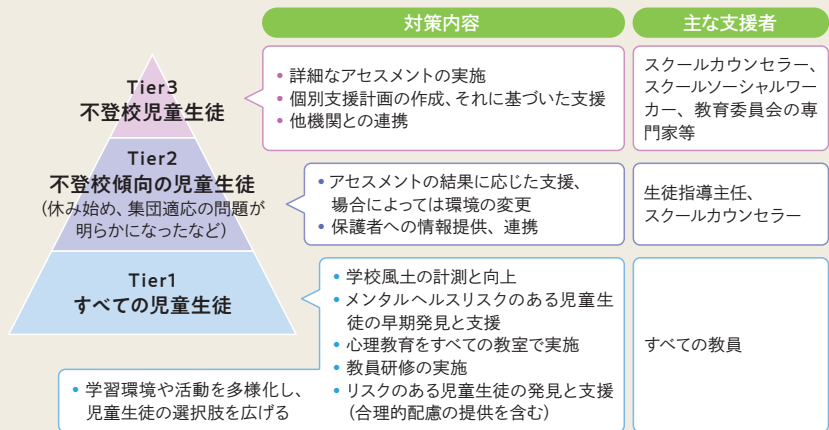
「不登校児童生徒」と「不登校でない児童生徒」との間に統計的に有意(p<.05)だった項目のうち、主要な項目を抜粋。
*2オッズ比は、同調査においては2つの項目を比較した際の回答率の差を示した値。オッズ比の値が大きいくほど、2つの項目の回答率の差が大きくなる。
*3 RTIは、Response To Interventionの略で、介入・支援への反応モデル。すべての人を対象にした予防、初期段階での対策、問題となった人への対応と、3つのレベルでそれぞれの反応に合わせて次の段階の支援を行うというモデル。

図3 きっかけ要因に関する教員・児童生徒・保護者の回答の比較

	教員 1,424人 (%)	不登校児童生徒 239人 (%)	不登校児童生徒の保護者 200人 (%)	
人間関係	いじめ被害	4.2	26.2	29.2
	教職員への反抗・反発	3.5	35.9	44.7
	教職員とのトラブル、叱責等	2.0	16.7	20.5
学習	学業の不振	41.2	47.0	35.9
	宿題ができていない等	40.5	50.0	37.7
メンタルヘルス	体調不良の訴え	18.5	68.9	76.5
	不安・抑うつ等の訴え	19.0	76.5	78.4
	居眠り、朝起きられない、夜眠れない	8.3	70.3	74.7

教員・児童生徒・保護者との回答に差があった項目(赤い下線)と、おおむね一致した項目(青い下線)のみを抜粋。
*2オッズ比は、同調査においては2つの項目を比較した際の回答率の差を示した値。オッズ比の値が大きいくほど、2つの項目の回答率の差が大きくなる。
*3 RTIは、Response To Interventionの略で、介入・支援への反応モデル。すべての人を対象にした予防、初期段階での対策、問題となった人への対応と、3つのレベルでそれぞれの反応に合わせて次の段階の支援を行うというモデル。

図4 RTIモデル^{*3}で整理した不登校の対策



*2オッズ比は、同調査においては2つの項目を比較した際の回答率の差を示した値。オッズ比の値が大きいくほど、2つの項目の回答率の差が大きくなる。
*3 RTIは、Response To Interventionの略で、介入・支援への反応モデル。すべての人を対象にした予防、初期段階での対策、問題となった人への対応と、3つのレベルでそれぞれの反応に合わせて次の段階の支援を行うというモデル。

います。将来的には日本でもそうしたアセスメントの実施が期待されます。

不登校はそれ自体が問題ではなく、教育を受けられないことが問題です。学校のほかにも多様な学びの場を用

意し、様々な子どもの特性や希望に適した教育を提供することが重要です。

当研究所も調査研究に力を入れてアセスメントや教員研修等を開発し、学校を支援していきたいと思っています。

*2 オッズ比は、同調査においては2つの項目を比較した際の回答率の差を示した値。オッズ比の値が大きいくほど、2つの項目の回答率の差が大きくなる。 *3 RTIは、Response To Interventionの略で、介入・支援への反応モデル。すべての人を対象にした予防、初期段階での対策、問題となった人への対応と、3つのレベルでそれぞれの反応に合わせて次の段階の支援を行うというモデル。